

令和3年度

第2回 豊田市上下水道事業審議会

(概要版)

令和3年11月15日

令和3年度 第2回豊田市上下水道事業審議会 会議録（概要版）

【日時】 令和3年11月15日（月） 午後2時00分～3時30分

【場所】 豊田市役所 南51会議室

- 【次第】
- 1 会長あいさつ
 - 2 議事
 - (1) 新・豊田市水道ビジョンの改訂について
 - (2) 水道事業の現状分析について
 - (3) 豊田市汚水適正処理構想の見直しについて
 - 3 その他連絡事項等
 - 4 事業管理者あいさつ

【出席者】 <委員> 竹内 信仁（名古屋大学名誉教授） ※会長
神頭 広好（愛知大学経営学部教授）
松本 嘉孝（豊田工業高等専門学校准教授）
近藤 恭弘（豊田商工会議所第一工業部会部会長）
杉本 敦子（豊田商工会議所女性会会長）
宇野 晃（豊田市区長会理事）
松原 秀敏（豊田市小中学校長会）
石橋 博文（豊田加茂薬剤師会監事）
野々山 輝美（あいち豊田農業協同組合女性部長）
河合 久江（足助地域会議委員）
鈴木 弘美（下山地域会議委員）
古橋 久三（稲武地域会議副会長）
城金 茂樹（公募委員）
<事務局> 前田 雄治（豊田市事業管理者）
杉本 尚久（上下水道局局長）
成瀬 光明（上下水道局副局長）
下川 涼太郎（上下水道局総務課長）
澤田 亜紀（上下水道局経営管理課長）
岡田 政彦（上下水道局企画課長）
山本 直彦（上下水道局料金課長）
澤田 善之（上下水道局水道整備課長）

新實 三矢（上下水道局水道維持課長）
岩田 裕二（上下水道局上水運用センター所長）
堀江 莊平（上下水道局下水道施設課長）
竹村 浩一（上下水道局下水道建設課長）
新岩 康正（上下水道局企画課副課長）
金子 卓矢（上下水道局企画課担当長）
畑田 吉彦（上下水道局経営管理課副課長）
八木 衣絵（上下水道局経営管理課担当長）
播磨 有希子（上下水道局経営管理課担当長）
柳 富美夫（上下水道局経営管理課主任主査）
岡野 久（上下水道局経営管理課主査）

【欠席者】

中山 恵子（中京大学経済学部教授） ※副会長
藤嶋 伸一郎（豊田商工会議所：豊田信用金庫 理事長）
片桐 正博（豊田森林組合代表理事組合長）
青木 厚子（公募委員）

【傍聴者】

なし

【議事等の摘要】

1 会長あいさつ

- ・今回は、第1回の審議会で話がありました、今年度改訂する「新・豊田市水道ビジョン」の目標数値の設定について説明があります。「新・豊田市水道ビジョン」は水道事業の方向性を明らかにし、その実現に向けた取組を示した最も基本となる計画です。また、豊田市内の下水道の効率的かつ効果的な整備手法を選定する「豊田市污水適正処理構想」の改訂についても説明があるようです。委員の皆さまから御意見あるいは御提言など頂ければと思っております。

2 議事

(1) 新・豊田市水道ビジョンの改訂について

○事務局

- ・資料に基づいて説明

<質疑応答>

○A委員

- ・新たな豊田市水道ビジョンはどのように市民の方に公表していくのか、一番大事なポイントと思うが、ユーチューブを使う方法などもあるが、アイデアがあったら教えていただきたい。

○事務局

- ・市民への公表手段として2月にパブリックコメントを予定している。その後、ホームページなどで公表することも予定しているが、委員が言うようにユーチューブなどでの発信も考えていきたいと思っている。
- ・今のところ新しい公表手段は思いついていない。

○B委員

- ・1ページの改訂のポイントの(2)中間評価で「事業や取組の内容を見直し」とあるが、老朽化と耐震化の評価を変えるということか。

○事務局

- ・そうである。

○B委員

- ・2ページの施策名Ⅲ災害に強いライフラインの(3)老朽化対策の推進の重要管路の目標耐用年数超過率をR1からR2に向けて3%から4%と、この数値はよく解るが、1ページ目の改訂のポイント(2)のストックの表を2ページのこの指標で表すとどうなるのか。

○事務局

- ・これまでの老朽化対策の取組は、法定耐用年数を使用していた。管路であれば40年であるが、40年を超えたものは更新するという考えでやっていた。
- ・今後は対象を絞り込み、法定耐用年数ではなく、目標耐用年数で更新していくのが大きなポイントであるが、1ページのストックの表を水道ストックマネジメント計

画で定める目標耐用年数に照らし合わせると、今よりも傾きが緩くなる。

○B委員

- ・それは対象を絞り込んだ場合か。

○事務局

- ・そうである。今までは、40年を超えた管路は全て対象とし更新していたが、今後はリスク評価したうえで対象を絞って更新し、何かあっても被害を最小限に留めるという考えである。

(2) 水道事業の現状分析について

○事務局

- ・資料に基づいて説明

<質疑応答>

○C委員

- ・最近、下水道が普及してきたが、これにより水道の使用量は増えないか。

○事務局

- ・今まで使っていた水が下水道に流れるようになるだけなので使用量は変わらない。
- ・また、水道の普及率もほぼ100%なので増えない。

○会長

- ・32ページの最後のところで「現在の料金体系では給水収益の大幅な増加は見込めない」とあるが、増加を見込んでいるのか、現状維持を見込んでいるのか、減少を見込んでいるのか、この表現だと読んだ人は、増加はしないが現状維持はできると読んでしまう。

○事務局

- ・現在では人口減少、水の使われ方の変化によって水量、給水収益ともに減少すると見込んでいる。
- ・コロナ禍になって料金体系の安いところの使用量が増え、大口使用者の方が減っている現状がある。収益も緊急事態宣言中は減っており、在宅勤務が導入され水道の使われ方が変わってきている。

○D委員

- ・最後のところで「現在の料金体系では」と料金体系のことだけを言っているが、説明では、更新が他の市と比べて多いとか色々な要素があったが、そういうものをシミュレーションかけて、どうしたら一番いい落としどころか試算をしているのか。

○事務局

- ・現在、投資の適正化、管路・施設の耐震化率や更新率、経営状況などを考慮してシミュレーションを行い、どういった料金体系が適正か試算しているところである。

○D委員

- ・日本の人口は、ほとんどの都市で少なくなっていくのでそれを前提にし、今までは成長するという前提でものごとを考えていたがそこを変えていかないといけない。

○事務局

- ・現在、各種データから人口の減少を推計しており、それに基づく給水収益がどれくらい減少するか試算しているところである。

○E委員

- ・6つの視点をういた類似団体比較分析だが、豊田市は工業都市なので、例えば、広島、日立といったところをデータに入れてみると、違った都市でも同じようなものがあるのではないかと。比較する場合は、もう少し他の都市を入れてみてはどうか。

○事務局

- ・委員御指摘のとおり豊田市は産業都市として特徴のある都市と考えているので、そういった視点から同様の他都市との比較を進めていく。

○F委員

- ・平成の大合併以降と以前をみた場合に、現状が明らかに悪化していると単純に考えますが、合併により増えた中山間地の面積による経営の悪化というのはどう試算しているか。

○事務局

- ・過去地域によっては採算の合わないところもあったと思う。そういったところと経営統合し、豊田市として一市一水道としてやっているが、それについての試算は、来年度、示していきたい。
- ・統合により採算が合わない部分のうち平成29年度に統合した分については、一般会計に負担してもらっているのが現状である。

(3) 豊田市污水適正処理構想の見直しについて

○事務局

- ・資料に基づいて説明

<質疑応答>

○A委員

- ・(2) 広域化・共同化に伴う污水处理施設の統廃合の表のLCC(ライフサイクルコスト)が差引9,700万円減らせるということだが、この費用というのは、具体的にはなにか。
- ・広域下水道に接続することによって、市民の料金負担は変わらないのか、増えるのか、減るのか。

○事務局

- ・廃止した場合には、流域下水道まで管をつないでいく建設費が入っている。存続の場合は、施設の更新費、維持管理費を30年間で割った金額が入っている。年割で、例えば鞍ヶ池浄化センターでは1,500万円、高岡中部浄化センターでは6,500万円です。累計が9,700万円である。
- ・市民生活に影響するかについては、基本的には影響しない。どこで処理するかだけである。経営状態からすると一時的には設備投資にお金が掛かるが、20年、30年でみると間違いなくメリットが出てくる。

○A委員

- ・災害時に管路が破損し、トイレが利用できなくなることも考えられるので、そういう場合に下水道マンホールとかの個別対応も考慮していただきたい。

○事務局

- ・災害時、管が破損すればそういった心配はある。方法としては避難所にあるマンホールトイレ等の活用があるが、色々な方法を使って災害時の対応はしていかなければいけない。複数の対応を今後検討していきたい。

3 その他連絡事項等

○経営管理課畑田副課長

- ・来年度の審議会開催予定について説明

4 事業管理者あいさつ

- ・本日は、御審議ありがとうございます。今日の案件のうち2つは、この後、パブリックコメントをかけて、今年度、計画を世に出していくこととなります。また、来年度、料金改定の時期になっていますので、水道事業の現状の説明をさせていただきました。先ほど、色々とお意見をいただいたようなシミュレーションを始めとして、皆さまに提示していきたいと考えています。
- ・ここで最近の状況について、御案内させていただきます。新型コロナウイルス感染症につきましては、非常に安定的で、本市の感染者はこの1週間では4人という水準になってきております。ワクチンの接種状況は、75%の方が接種済みとなっていますので、3/4の方はワクチン接種をしている状況になっています。
- ・保健所だけでなく、上下水道局も、電話の問い合わせや感染経路の確認など、保健所の業務を手分けして全庁的に豊田市役所として取り組んでいました。
- ・今は安定していますが、第6波対策が政府から出されましたので、それに基づいて市役所としてもしっかりと取り組んで参りたいと思っております。
- ・本日の説明で本市の水道管が長いという話がありましたが、3,660kmございます。先日、和歌山で水管橋事故がありましたが、本市にも1,200か所ぐらい水管橋及び橋の下にかかっている水道管がありまして、その中でも重要なのが矢作川水管橋と言って、平成記念橋の上流に225mの水管橋がございます。毎年度、点検はしておりますが、和歌山での事故がありましたので緊急的に点検を行いました。また、18日にはドローンを飛ばして画像の解析や赤外線画像による確認などの実証実験も行います。これについては、報道発表もしておりますので、皆さんも映像を御覧いただけるかもしれません。
- ・また、令和3年度の日本水道協会による表彰で豊田市がイノベーション賞を受賞しました。AI技術と職員の暗黙知、衛星画像を活用しながら水道管の老朽予測をしてきた取組が評価され受賞となりました。
- ・先ほども申しましたが、本市には長い水道管があり、維持管理が大変な状況にあるなか、職員も色々工夫しながら取り組んでいます。

- ・非常に経営が厳しいとお話しさせていただきましたが、それ以外にもダウンサイジングやA Iを使った取組など色々な取組を行っていることを紹介させていただきながら、来年度、適正な水道料金のあり方について、御審議いただきたいと思っております。
- ・本日は、ありがとうございました。

午後3時30分終了